

# 市民が支える

## 「門真絵画100選」

描く、鑑賞する。絵画の魅力は言葉のいらぬ感動共有空間だ。著名な芸術家の作品もいいが、街の身近なあの人の描く絵を鑑賞するのもいいものだ。地域文化はそういった作品から広がる。

門真市の文化芸術振興のための公民協働会議（アートリーグ門真）が昨年度から「門真絵画100選」を開始。今年で2回目の作品展が先月実施された。市内で活動している絵画サークル・団体に呼びかけ、実行委員会を立ち上げて取り組んでいるもので、ネットワークづくりはもちろん、市民交流の場となっ



会場には力作が並んだ

た。市民による文化芸術活動への取り組みがきっかけとなり、お互いがふれあう機会づくりになっている。来場者は、「自分のお気に入りの5作品」を選び投票をし、その結果、4位に2作品が並び、合計6作品が選ばれるなど見えない交流の輪が広がる。

坂本喜代子さん（83）は、60歳まで仕事を続け、夫の死別後、好きだった絵を描き始めた。6畳の一室をアトリエにして、油絵に没頭。絵画ノートを作り、師を求め、遠方のデッサン教室にも通う。仲間との切磋琢磨する日々は、年齢以上の若さの秘訣。ひとり暮らしの生活は充実していて、子や孫たちにもいい生き方見本となっているようだ。

ている。前回より20点近くも出展数が増え、活気づいている。昨年は「門真」をモチーフにした力作が寄せられたが、今回はテーマを決めない自由作品が出展された。それぞれの想いが表現され、鑑賞に訪れた市民は日常生活から解き放たれ、絵画の世界を楽しんでいる。